



## 奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター  
（奈良県保健環境研究センター内）  
**N a r a I D S C**



### ● 今週の概要

■ 今週の感染症情報



（調査週） 平成 23 年 第 52 週 12 月 26 日（月）～1 月 1 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況 （奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当り	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	5.66	→	→	→	↑
2	インフルエンザ	2.33	↑↑	↑↑	↑↑	↑↑
3	水痘	1.09	→	→～↓	→～↑	↓
4	RS ウイルス感染症	0.89	→～↑	→	↑	↑
5	A 群溶連菌咽頭炎	0.66	→～↓	→～↓	↓	→

**県北部地区概況** 報告数は209例で、前週報告の244例から減少。上位5疾患は、①感染性胃腸炎、②インフルエンザ、③RSウイルス感染症、④水痘、⑤A群溶連菌咽頭炎の順。RSウイルス感染症の報告数（15例）は、やや増加。A群溶連菌咽頭炎の報告数（9例）は、横ばい。水痘の報告数（14例）は、ほぼ半減。感染性胃腸炎の報告数（85例）は、減少。インフルエンザの報告数（68例）は、やや減少。なお、インフルエンザ定点からの報告の内訳《（ ）内は定点当たりの報告数》は、奈良市HC管内；22例（2.00）、郡山HC管内；46例（2.88）だった。奈良市HCおよび郡山HC両管内基幹定点から、マイコプラズマ肺炎が各々1例ずつ計2例報告された。また、奈良市HC管内眼科定点から、流行性角結膜炎の報告が2例あった。（村井 記）

**県北部外来状況**：外来患者数は年末ということもあり増加しました。先週末よりインフルエンザの患者さんが連日でております。迅速検査では AH3 とと思われます（AH1 pdm と A 型が別々に判定できるキット使用）。年齢は学校が休みのため小学校高学年から成人です。腹痛と嘔吐に続く下痢の感染性胃腸炎も先週から保育園児と成人で流行してきました。例年通り嘔吐症状は 1 日前後で軽快します。咳のしつこく続く臨床的マイコプラズマ肺炎は引き続きよくみかけます。マクロライド系抗生剤を投与しても熱や咳の症状が軽快しにくい例もよくみかけます。（矢追 記）

**県中部地区概況** 報告数は51週の243例から52週は189例に減少した。上位の5疾患(51週→52週)は、①感染性胃腸炎(123例→84例)、②インフルエンザ(57例→49例)、③水痘(16例→22例)、④RSウイルス感染症(14例→14例)、⑤A群溶連菌咽頭炎(7例→9例)の順であった。感染性胃腸炎が1位、インフルエンザが2位、水痘が3位、RSウイルス感染症が4位、A群溶連菌咽頭炎が5位で、51週と同じ順位であった。眼科定点からは、桜井HCより流行性角結膜炎1例の報告があった。基幹定点からの報告はなかった。(徳田 記)

**県中部外来状況**：年末の数日は大変混雑した。年末に、発熱が持続し経過遷延例で紹介入院の例でアデノと診断の5才男児例があった。RS気管支炎例が数例あった。外来で経過観察できた例もあった。水痘、手足口病が小流行、伝染性紅斑、A群溶連菌感染症が散発。感染性胃腸炎が小流行。ノロウイルス様の嘔吐を主とした例が多かった。ロタ陽性例はごくわずか。インフルエンザは年明けから急に迅速A陽性例が増加した。大阪などへ勤務の父が初発でその家族、乳幼児とその母親といったパターンが多く、次いで中・高生単発例。経過は今のところ軽症経過。(岡本 記)

**県南部地区概況** 報告数(第51週→第52週)は39例→51例と増加。報告のあった疾患は、①感染性胃腸炎(23例→29例)、②インフルエンザ(3例→11例)、③A群溶連菌咽頭炎(5例→5例)、④RSウイルス感染症(2例→2例)、④水痘(4例→2例)、④マイコプラズマ肺炎【基幹定点】(0例→2例)であった。(柳生 記)

**県南部外来状況**：外来数は横這い。あまり多くは無かった。ノロウイルスと思われる感染性胃腸炎が増加している。ロタは見られず。ワクチン希望者が少しずつあり。インフルエンザは昨年未まで全く気配も無かったが、年明けの本日、孤発の成人1例と、小学生からその両親への家族内感染例の計4例を認めた。いずれも迅速検査でA型陽性、後者は(H1N1)2009陰性にてAH3と思われるが発熱の程度も軽かった。両者とも元旦に大阪へ出かけている。A群溶連菌咽頭炎ややあり。水痘少し。(山本 記)